

しまね

# 社会教育だより



記念の40号  
これからもよろしくにゃ！



島根県観光キャラクター  
「しまねっこ」島根連許諾  
第8518号

## 2025.2月号

### 特集 これからも島根のふるさと教育！ ～学校・家庭・地域が総がかりで育むふるさとへの愛着と誇り～

#### contents

- 研修・パワーアップ  
～公民館等職員対象の研修がさらに充実します～
- 学びがチカラに!! [松江市立大庭小学校 加藤 幸平さん]
- わがまちの社会教育の実践紹介 [隠岐の島町・益田市]
- 報告 しまねの人づくり大交流会2024



# これからも島根のふるさと教育!

～学校・家庭・地域が総がかりで育むふるさとへの愛着と誇り～

島根県教育委員会では、重点施策である「ふるさと教育」を、平成17年度から県内の全公立小中学校・義務教育学校の全学年・全学級で進めています。

今回は、島根県教育庁社会教育課土江課長にご自身の経験も踏まえ、これまでのふるさと教育をふり返っていただき、これからのふるさと教育に期待することを中心に語っていただきました。

## 島根県教育庁社会教育課 土江素子課長に聞く！(聞き手 研修センター青木)



島根県教育庁社会教育課  
土江素子 課長

**Q.** 課長ご自身のふるさとでの学びの思い出などを聞かせてください。

**A.** 私は出雲市(旧平田市)で高校生まで過ごしました。昔のことなので、当時は「ふるさと教育」という形ではなく、地域を学ぶという観点だったのではと思いますが、地域の民俗芸術である一式飾りや、昔の生活様式を学ぶため、わらじづくりを地域の方に教えていただきました。わらじづくりは形作るのが難しく、試行錯誤したことや、アドバイスをさせていただいてうまくできて嬉しかったことなどを覚えています。

**Q.** ふるさと教育は平成17年度から始まり今年で20年となりましたが、現在学校ではどのようにふるさと教育が進められているのでしょうか。

**A.** ふるさと教育は、ふるさとの「ひと・もの・こと」を地元の「ひと」を通して学び、ふるさとの良さをしっかりと味わいながらそのよさを引き継いだり、さらに良くしていくために自分たちにできることを考え、実行に移していく。こういった子どもたちを、成長にしたがって育てていくことを目的として、それぞれの学校で進められています。

一方、先ほどお伝えした私の思い出のように、嬉しい体験で終わってしまい、自分たちが出来ることを考え実行に移すといった発展的な学びにつながっていない例もあると聞いています。

現在、各学校にはふるさと教育の質を確保しつつ、無理なく教育活動ができるようあらためて活動内容の確認をしていただいているところです。

**Q.** これからのふるさと教育について、期待していることを教えてください。

**A.** 子どもたちのために地域のさまざまな方々の力をお借りしたいのです。目的を十分に踏まえてふるさと教育を進めようとするれば、教職員にとっては準備などに時間がかかるものです。この結果、授業の準備や、学習のつまずき、困難を抱えている子どもに対応する時間が十分にとれないといったことでは、子どもたちにとってよい環境にはなりません。また、経験の浅い教職員や異動等でその地域をよく知らない教職員では、地域の方との協働をどのように進めたらよいのかと悩んでいることがあるかもしれません。

こういったことに対応するためにも、担任一人で抱え込まず、学校全体で、地域の方々と協働して取り組んでいくことが大切です。県内の多くの市町村では、各学校や中学校区で、学校と地域を結びコーディネーターが配置され、地域と学校が連携・協働して様々な活動に取り組んでいけるように支援しています。

ふるさと教育に今後も長く取り組んでいくためには地域の皆さんの力が必要不可欠です。島根の子どもたちの成長を支え、教職員が子どもと向き合う時間を生み出し、また地域の皆さんも生きがいを感じていただけるよう、これからも地域の皆さんとともにふるさと教育を進めていきたいと思っています。

**Q.** ふるさと教育に関わる方へメッセージをお願いします。

**A.** どんなに時代が変わっても受け継いでいきたい、人のつながりやあたたかさを、大人も、子どももお互いに感じとることができるのが、ふるさと教育です。

島根の子どもたちが地域に愛着と誇りを持って、自分の人生と地域や社会の未来を切り拓く、生きる力を育てていくために、これからも、地域で生きる皆さんからの、子どもたちへの力強い応援をお願いします。



# 事例紹介

今回は、児童・生徒が自分たちができることを実行に移す発展的な学びの中に、人とのつながりやあたたかさを感じる2つの事例を紹介します。

## 事例

1

### 表現力を高める活動を「校内研究（特別活動）」と「ふるさと教育」の両輪で

雲南市立西日登小学校

全校児童19名の西日登小学校は、今年度「日本教育公務員弘済会島根支部教育実践研究論文学校部門最優秀賞」を受賞されました。取組の概要について高橋校長先生、三島教頭先生、大野先生に伺いました。

研究実践にあたっては、どんな活動を行うかではなく、職員全員で児童の課題を探るところから始めました。表現力の育成が急務であることを職員全員で確認し合い、あわせて、西日登小学校の特色である地域での貴重な体験学習の場においても、児童の表現力を高めることができるのではないかと考えました。

表現力の育成に向けた取組は「校内研究（特別活動）」と「ふるさと教育」を両輪とし、まず、安心して話合いができるよう話合いのマニュアルを作成し、児童がこれを活用し、話合い活動を積み重ねる中で自分の気持ちを伝えることや、相手の想いに気づくことができるような場づくりを工夫しました。また、指導主事に指導を仰ぎ、実践の方向性や児童の成長の様子をどのようにして見取っていくかについての助言もいただきました。

その結果、児童の新たな発想をもとにして特別活動「スマイルプロジェクト」が立ち上がり、全校のみんなを笑顔にしたいという思いをもち、自分たちで活動を計画・実行しようとする力が高まりました。また、地域の方々と一緒に学習する場面では、児童が自分たちで学習の計画を考えたり、自分が実感したことや心にある言葉を表出したりする姿がこれまで以上に見られるようになってきました。



現地でやってみたい活動についての話合い

表現力の育成に向けた取組により、自分なりの表現をしようとする力はもとより他者とつながろうとする力、自己肯定感、そして地域の方々への優しいまなざしが育ってきたという、地域と一体になった取組をお話しいただきました。職員全員で児童に身に付けてほしい力を明確にしているところが特徴です。

## 事例

2

### 学校を飛び出し地域へ! 「子ども」と「地域住民」が共に学び合い・高め合う旭町!

浜田市立旭中学校

全校生徒60名の旭中学校は、学校と地域が一体となってふるさと教育の学習を進めておられます。取組の概要について別所校長先生、浜田市旭支所防災自治課大屋さん、今市まちづくりセンター長野村さんにお話を伺いました。

学習にあたっては、どんな力を高めるかという視点を大切に学習を進めました。生徒の実態から「主体性の向上」と「多様な人や価値観との出会い」を軸とし、これまでも取り組んできた地域での課題解決学習を発展させることで生徒の主体性を高めたいと考えました。

実際の授業では、「ふるさと再発見ツアー」と題し、生徒たちは、旭町内の5つの地区に出かけました。まちづくりセンターの職員や商店の方など、「人」との対話を通して地域の良さや課題を整理しました。そして、地域をより良くするための企画書を作成し、地域の方へ提案を行いました。すると、「提案で終わらせず、地域で実現してみよう!」というまちづくりセンターや行政担当者からの後押しもあり、地域で実現することになりました。今市地区の土曜夜市では、考案したロゴが採用され、塗り絵コーナーを運営する活動も実現しました。また、他の地区では、ウォーキングイベントなども行いました。



自分たちの企画を地域で実現!

生徒はこれをきっかけに地域のボランティアに参加する姿や地域の方と挨拶を交わす姿が増えました。また、生徒会活動でも、学校のルールや新たなイベントの企画など、主体的な姿が見られました。学校でも地域でも生徒の主体性の高まりを感じています。

地域の方々にとっては、中学生と関わることで生きがいを感じたり、新たなことに挑戦してみようという気持ちが高まったりして、日々の生活がより豊かなものになっています。

地域の多様な人や価値観に触れ、課題解決に向けての実践を通して、主体的な力も高まってきた、学校と地域が一体となった取組をお話しいただきました。体験だけで終わらせず、生徒が地域のために実践したこと、地域住民も生きがいを感じ、互いに高め合っているところが旭地区の魅力です。

ふるさと教育は、学校・家庭・地域が一体となって、ふるさとに愛着と誇りをもち心豊かでたくましい子どもを育てることを目的としています。地域にある課題に正対することで、地域の一員として地域に貢献したり、地域を大切にしたりする心を培い、実行力を高めていきます。また、地域の皆さんには、子どもたちを支え共に学ぶことで生きがいなどを感じていただくことを大切にふるさと教育の取組を進めていきます。

# 研修・パワーアップ

～公民館等職員対象の研修がさらに充実します～

## これまでの公民館等職員を対象とした研修

### 公民館等職員研修



### 公民館等職員専門研修



#### 《参加者の声》

- ・ 普段、町外の主事の方と交流する機会がないため、貴重な時間になりました。
- ・ 事業の進め方や協力者とのかかわり方など、とても勉強になりました。
- ・ 約半年間、なかなか上手くいかないことも、仲間と一緒にがんばっている！と思ったら、どうにかがんばることができました。
- ・ 全5回の研修でしたが、非常に充実した内容でした。他の館の意見を聞き、刺激を受けながら取組を進めることができました。

#### 《参加者の声》

- ・ 事例発表、講義から実践に向けてヒントになることがたくさんあり、意欲が高まりました。明日から地域で活かしていきたいです。
- ・ 演習では、多様な意見を聞くことができ、勉強になりました。また、同じような立場の主事の方と語ることで、自分も頑張ろうと思えました。
- ・ 一人でモヤモヤしていた考えがスッキリして、明日から地域のために何をしていくと良いのかを整理することができました。

参加者の声から、それぞれの研修で、意欲の向上や、新たな気づき、つながりが生まれてきたことが分かります。こうした良さを残しつつ、新たにパワーアップしていきます。

## どう変わるの？ 簡単に紹介します

これまで

### 公民館等職員専門研修

対象：経験豊富な方  
内容：講義・演習など

### 公民館等職員研修

対象：事業経験のある方  
内容：事業の企画・立案  
実践発表、ふり返り

令和7年度

Challenge!

### 公民館等職員実践研修

対象：公民館等職員どなたでもOK  
内容：事業の企画・立案、実践発表、ふり返り  
連携先：島根県教育庁社会教育課、県内派遣社会教育主事等  
（「みんなでチャレンジ！しまねを創る人づくり支援事業\*」を実施する公民館等はこの研修の受講が必須です。）

Try!

### 公民館等職員必要課題研修

対象：公民館等職員どなたでもOK  
内容：地域の必要課題をテーマに講義・演習  
連携先：内容に応じた関係機関

### ここがパワーアップ

- ☑ 経験年数等による受講区分廃止 ⇒ **学びの機会の広がり**
- ☑ 連携を強化、新規タイアップ ⇒ **実践力、専門性向上**

令和7年度から、公民館等施設の職員を対象に「公民館等職員実践研修」(以下実践研修)、「公民館等職員必要課題研修」(以下必要課題研修)の2つの研修を行います。実践研修はテーマを変えながら脈々と続いてきた公民館等職員研修の後継研修です。必要課題研修は令和7年度から新たにスタートする研修です。当センターの研修が、これまで以上に公民館等職員のみなさんの力になれるよう、内容を見直し、一層の充実を図りました。このページでは、令和7年度からの研修内容について、具体的にどうパワーアップするのかを中心にお伝えしていきます。

## 令和7年度 公民館等職員を対象とした研修はこちら

### 実践研修 ～事業を通した人づくり～

Challenge!

■ 地域人材の育成を目指し、事業を企画・運営し、実践力を高める1年を通した研修。

■ [基本の研修内容・期日]

第1回 事業の種探し…地域分析をもとに事業構想を練る	【東部】 5/23 (金)	【西部】 5/27 (火)
第2回 事業計画作成…実施する事業の計画を立てる	【東部】 6/24 (火)	【西部】 6/27 (金)
第3回 事業のまとめ…事業についてふり返り、整理する	【東部】 10/15 (水)	【西部】 10/17 (金)
第4回 実践発表交流…実践の気づきを伝え合う	【合同】 11/28 (金)	

■ 定員 東西各12名程度

### ここがパワーアップ

- ☑ 経験年数不問! 経験の浅い方、ベテランの方、リピート受講大歓迎!
- ☑ 「みなチャレ事業<sup>※</sup>」とのタイアップ!
- ☑ 企画・立案力/プレゼンテーション力/コーディネート力アップ!

### ※ 「みんなでチャレンジ! しまねを創る人づくり支援事業」について

本事業は、地域づくりを担う人づくりの基盤となる社会教育機能の一層の強化を図るため、公民館等をはじめとする社会教育に関わる人材のスキルアップに取り組む市町村を支援するものです。

本事業では、「実践研修」を受講し、その1年間の学びを通して、社会教育に対する思いやスキルが高まった人材の裾野を広げていきます。そのために、県内の派遣、東西研修センター、青少年社会教育施設等の社会教育主事と市町村任用の社会教育主事担当者、各教育事務所、県社会教育課がみんなでサポートしていきます。また、本事業を活用していただいた受講者には、市町村を通してその実践部分に関わる公民館等の活動費を補助します。研修の受講と併せて本事業をご活用いただきながら、人づくりを進めてみてはいかがでしょうか。



県社会教育課 担当

### 必要課題研修 ～地域における必要課題の解決を目指して～

Try!

■ 地域の必要課題解決を目指し、事例発表や演習を通して公民館等職員としてできることを考える研修。

■ [テーマ・期日・会場など]

○地域防災 【東部】 9/17 (水) 雲南合同庁舎 【西部】 9/19 (金) 浜田合同庁舎

○人権教育

- ・人権啓発推進センターの「社会人権教育・啓発公民館等関係研修」と連携して実施します。
- ・8～11月の間に県内数か所で開催予定です。詳細は人権啓発推進センターからの開催要項や当センターホームページ等でお知らせします。

### ここがパワーアップ

- ☑ 必要課題の解決について学ぶことで専門性向上!
- ☑ 特定の必要課題に焦点を絞って学ぶことができる!

ご参加お待ちしております。

ここでは公民館等職員を対象とした研修について紹介しましたが、他の研修についても同様にパワーアップを図っています。研修申込については、各研修の1か月前に市町村担当者を通じて案内いたします。また、同様のタイミングでホームページにも掲載しますので、ぜひご覧ください。社会教育研修センターは社会教育関係者の味方です。より良い地域、より良い明日のために、一緒に考え、一緒に悩み、一緒に学び、ともに喜び合いましょう。令和7年度も皆さんと研修でお会いできることを楽しみにしております。さあ、みんなでチャレンジ!



研修センター 担当

# 学びがチカラに!!

社会教育研修センターの研修で学んだことを、地域や現場での実践に活かしている方を紹介します

## 学びつながら授業を創出する

松江市立大庭小学校 教諭 加藤 幸平 さん

小学校に勤務する加藤さんは、令和5年度に島根大学の社会教育主事講習を修了され、本年度は「ファシリテーター養成講座」を受講されました。講座での学びを学校現場でどう活かしているのでしょうか。5年生の授業実践を中心にお話を伺ってきました。



### ■世代をつなぐワールド・カフェ



ワールド・カフェの様子

ファシリテーター養成講座では、様々な参加型学習について学びました。その中で、多世代交流のねらいを達成するにはワールド・カフェ\*が最も適した学習方法であると考えました。また、受講中に得た意見をもとにホスト役を大学生に委ねることにしました。それは、大庭地区に詳しくない大学生だからこそ、小学生と高齢者をつなぐ役割となって対話を促すことができると期待したからです。当日は、「大庭小出身のバスケットボール選手は…」「神魂神社とは…」など、地域の魅力（ひと・もの・こと）について活発な意見交流が行われました。

### ■出会いや気づきが、活力になる

この他にも、養成講座では授業で用いるワークシートやアイスブレイクの内容について多くの意見をいただきました。中でも、高齢者や大学生とのかかわりが深い公民館職員や県職員の方からの意見が参考になりました。他業種の皆さんとの出会いや3日間の中での気づきが、私自身の活力になったとふり返ります。この経験を子どもたちにも伝えていきたいです。

### ■多世代交流プロジェクトⅡ～笑顔で元気な大庭のまちづくり～

5年生は総合的な学習の時間において、“共生社会”をテーマに学習を進めています。その一環として、今年度も多世代交流活動を実施しました。当日は、小学生、地域高齢者、社会福祉関係者、大学生たちが6人一組になり大庭地区の魅力について語り合いました。その後、ポッチャをして楽しみました。はじめは緊張した雰囲気でしたが、すぐに打ち解け、笑顔も増え、会話が弾みました。小学生からは「誰もが幸せに暮らすには、一緒に話し合うことが大切だと思った。」「新しい大庭の魅力が見つかった。」などの感想がありました。後日、地域の方から「名前を呼んで、あいさつをする子どもが増えた。」という嬉しい声も届き、本プロジェクトをきっかけに交流も生まれています。次年度は、大庭地区の課題にも目を向ける学びの場を設けたいと思います。



ポッチャで交流する様子

加藤さんは、教務主任として学校全体の教育計画を立てる仕事をしています。そして、各学年主任と相談しながら総合的な学習の時間にかかわっています。今年度は、学校全体の教育活動を俯瞰的にとらえ、各学年で身に付けたい学力を明確にし、系統立てた指導につなげているとのこと。加藤さんが、上記のように学び、つながる学習を先導することで、子どもだけでなく、地域の大人も一緒に楽しみ、学び、つながりを深めることができていると感じました。このような多世代が集い学びを深める学習が、次年度以降さらに充実することを期待しています。今後は、ますます楽しみです。

\*ワールド・カフェとは、メンバーを入れ替えながら数回にわたってテーマに沿って議論する参加型学習の一つ。まず、各グループで1人ホストを決める。ホスト役はメンバーが移動してもその場に残り、新しく来たメンバーに話し合った内容を伝える。こうして、グループ間の話題がつながり、新たな発見と気づき生まれることが期待できる。詳しくは右の二次元コードから→



# 社会教育の実践紹介



## 地域有志による布施地区の活性化を目指して ～布施体験クラブの取組～

布施体験クラブ 会長 脇 裕二

私たち布施体験クラブは、『かつての賑わいをもう一度、活力ある地域へ』と、地域有志が主体となり、昨年より活動しはじめた団体です。

かつては、地域で採れた産品や加工品を地元で販売する「里の市」というイベントを定期的に開催していました。当時は、消費者は次回を楽しみにし、出店者は生産意欲が向上し、地域内に活気があふれていましたが、最近は高齢化により休止状態でした。

そこで私たちはもう一度元気な地域をと、イベント名も当時の「里の市」として、昨年11月に手探りながら復活しました。今年は2回目ですが、開催するにあたり出店者を募集したところ、昨年を超える地域の方の応募があり、当



にぎわう会場

日は地域内外の方が訪れ会場はお祭りのような賑わいでした。

夏には、春日の浦海水浴場を会場に、子どもたちに「魚のつかみ取り・魚を自分たちで調理し食すイベント」も行い、家族や子どもたちに楽しんでもらいました。

私たち布施体験クラブは、あまり背伸びせずに地域の方と一緒にできる範囲の活動を目指し、これからも地域の活性化のため活動を進めたいと思います。



イベントを盛り上げる地域の方々

「もう一度元気な地域を！」そんな思いを持った地域の方が、布施地区を盛り上げようと地区の課題に立ち向かった取組です。今年の「里の市」は、中学生も「自分たちでできることをしたい！」と出店し、老若男女みんなが笑顔いっぱいのステキなイベントでした。こうした取組が地域の活力になり、地域のつながりをさらに深め、継続していくことを願っています。（隠岐の島町教育委員会 派遣社会教育主事）



## 多様な世代のつながりと輝きを生み出す図書館づくり

西益田小学校 社会教育コーディネーター 石井 七実

益田市はコミュニティ・スクールを設置した学校に「社会教育コーディネーター」を配置しています。放課後や長期休業中といった学校外の時間を中心に、子どもたちの学びの場を多様な地域の“ひと”と一緒に作り出しています。今回は西益田小学校の石井七実コーディネーターに取組を紹介させていただきます。

皆さんにとって小学校の図書館はどんな場所だろうか？

益田市の西益田小学校の図書館は賑やかな日が多い。昨年度、保護者・地域の方とリノベーションした図書館。ある日の放課後は、校長がチェリーズと命名した地域のおばちゃん達が帰りのバスを待つ子ども達とクラフト工作やミシンと一緒に楽しんでいる。ある週末には保護者が中心となって



絵本ワークショップ！  
図書館の大きな存在、稲岡さん！



地域の方々で賑わう  
【としょカフェ】

カフェを開いたり、またある時は絵本ワークショップをしたり、地域のお祭りに向けて中学生と大人が話し合う場だったりする。

全てに共通しているのは、「やりたい！」と思う人達が集い、そこに「学び」や「繋がり」ができるということ。私は緩やかに人や想いを繋げ、コミュニティが豊かになることを意識して一つ一つの活動を公民館主事と連携しながら創っている。

小学校図書館を活用して、思いやる相手が増えること、小学生と地のおじいちゃんおばあちゃんが名前呼び合う関係になること…その先に互いを大切に想いながら暮らす日常があり、それが一つの豊かな関係性だと思う。そんな日常に向かって図書館を中心に豊かな営みは続く。

第4期教育振興基本計画では、「社会教育による『学び』を通じて人々の『つながり』や『かかわり』を作り出し、協力し合える関係としての土壌を耕しておくことが求められる。」とあります。石井コーディネーターが子どもを中心に丁寧に関わりを紡いできたからこそ、子どもも大人も「やってみたい！」が生まれ、その想いが大切に育まれる地域になってきています。この地域が大切にしているスローガン＜子どもも大人もまちづくりの主体者＞に向かって今後も社会教育による耕しは続きます。（益田市教育委員会 派遣社会教育主事）

## 大交流会2024

この指とまれ! ひらく つながる しまねの人づくり

「地域づくりを担う人づくり」を目的とした実践は、多様な属性・分野にわたる関係者に広がり、最近では中・高生や大学生等若者による地域活動も行われるようになりました。

令和2年度の「社会教育士」の称号付与に合わせ、令和4年度から各教育事務所単位で「社会教育士等研修」が行われています。

今回の「大交流会2024」は、この「社会教育士等研修」の拡大版として、昨年11月15日（金）、島根県民会館を会場に開催されました。県内外から約160名の参加があり、多くの実践や仲間と出会い、これからの「人づくり」についてともに楽しく考えました。また、会場には「集って、楽しめる」体験活動のコーナーも設けられました。

\*詳細については「社会教育課ホームページ」をご覧ください。

## しまねの社会教育人材認証・登録制度について

しまねの社会教育を支える取組の裾野を広げ、チームしまねの社会教育人材が総がかりで「人づくり」を進めていくために、本県独自の『しまねの社会教育人材認証・登録制度』を創設しました。

この制度では社会教育主事有資格者・社会教育主事講習を修了した方は「しまね社会教育師（ご縁の国しまねの社会教育導き人）」として、また、有資格者以外の方で、地域の多様なフィールドで人づくり、地域づくりに携わっている方は「しまね社会教育サポーター（ご縁の国しまねの社会教育紡ぎ人）」として活躍を期待するものであり、右の二次元コードから、しまね電子申請サービスにより申請することができます。



申請はこちら

しまね  
社会教育師しまね  
社会教育サポーター

## 6つの実践発表

県内の学校、公民館等、地域、民間などの多様なフィールドで展開されている「地域づくりを担う人づくり」に資する実践について、2会場に分かれて6つの発表が行われました。



## 【参加者の声】

- ・実践発表が大変素晴らしく、私も頑張ろうというパワーと具体的なヒントをもらうことができました。魅力あふれる実践や熱い想いに触れ、とても幸せな時間でした。
- ・社会教育士の方々がそれぞれの現場で役割をもって活動されていて、その手法や課題解決のプロセスを伺うことができたことが大変良かったです。
- ・発表者が多分野にわたっていて、社会教育の精神がいろいろなところに及んでいることをうれしく思いました。

## 全体交流

参加者が一堂に会し、「えんたくんワールド・カフェ」という対話による交流活動を行いました。4人ずつグループになり、ひざを突き合わせながら丸い円卓「えんたくん」のシートに、自分の考えを書き込んでいきます。途中で2回グループを替えながら、日ごろ感じている「人づくり」に対する熱い想いを語り合いました。和やかで楽しい交流の場となりました。来年も多くの方にお会いできることを楽しみにしています。ぜひご参加ください。



## ご意見・ご感想

読まれた感想やご意見などございましたら、ぜひお書きください。今後のより良い紙面づくりに生かしていきます。なお、入力期限は次号発刊までとします。



## 東部社会教育研修センター

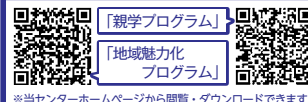
〒691-0074  
出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F  
Tel. (0853)67-9060 Fax. (0853)69-1380

URL: [https://www.pref.shimane.lg.jp/tobu\\_shakaikyoku/](https://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoku/)  
E-mail: [tobu\\_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp](mailto:tobu_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp)

## 西部社会教育研修センター

〒697-0016  
浜田市野原町1826-1 いわみーる3F  
Tel. (0855)24-9344 Fax. (0855)24-9345

URL: [https://www.pref.shimane.lg.jp/seibu\\_shakaikyoku/](https://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoku/)  
E-mail: [seibu\\_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp](mailto:seibu_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp)

第41号は  
9月末発行予定

※当センターホームページから閲覧・ダウンロードできます。